# ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科
名前 町田 麻依子
作成日 2024 年 2 月 26 日
更新の目的：役職や、カリキュラムの変更に伴う更新

【責任】

薬物治療や臨床系実習に関わる科目（3 年次 臨床検査学概論、4 年次 薬と疾病（悪性腫瘍学）科目責任者、臨床薬学実習Ⅱ区分責任者、Ⅳ区分責任者、Ⅴ科目責任者、6 年 次 アドバンスト演習 9（医薬情報区分責任者）、臨床薬学総論区分 2 に従事している。卒業研究 M グループの指導、委員会などについては、学内薬学教育評価委員会の委員、2023 年度からは実務実習委員会委員長、卒研委員会委員、生涯学習委員会フォローアップ講座担当、北海道薬剤師会の学術情報委員。2024 年度薬学教育評価機構評価実施委員。

【理念】

近年の医療の進歩を背景として、薬剤師は、個々の患者に対する医療の質の向上に貢献できる人財の育成が求められている。臨床系教員として、将来薬剤師として患者の治療に適切に寄り添い、難しい医療の場面においても、責任感を持って薬剤師の専門性を大いに発揮して活躍でき、医療チーム及び患者から信頼される人材の育成を目指す。その為に、領域横断的に物事を考えながら主体的に問題解決する力、相手を尊重しつつ周囲との関係を調整する力が必要とされ、「問題解決能力」と「倫理観」の醸成が必要とされる。更に、医療の質の向上の為には、「リサーチマインド」を有する臨床家の育成を目指し、そのような卒業生と共に臨床研究を行うことや、社会人薬剤師の自己研鑽の為に生涯学習の支援を介して、医療の進歩に携わりたいと考えている。

【方針・方法】

概要：上記理念の実現のために、学生が主体的に、「臨床を志向した問題解決能力」、「医療者としての倫理観」、「リサーチマインド」を醸成できる教育方針を掲げている。国家試験の合格率向上は、上記理念の実現の為の通過点であると考えている。

「臨床を志向した問題解決能力の醸成」及び「リサーチマインドの醸成」

・臨床検査学概論では、基礎と臨床の接点について盛り込み、基礎と臨床のトランスレーショナルな学びを意識し、既存の基礎知識の臨床への応用例を利用している。臨床の導入科目として、興味を持って自己学習を促すことができるような講義の教材を作成し、時事問題や臨床現場でのエピソードを交えるなど工夫している。定期試験や Moodle 上の練習問題に加えて、症例ベー

スの課題を用いたレポートを課している。但し、3 年次1期科目であり、臨床導入科目であることから、疾患に対する病態生理を未学習である時点であることを考慮してプロダクト重視ではなくて、プロセス重視のスタンスで評価する工夫をしている。
・薬と疾病（悪性腫瘍）では、基礎の講義の後に、がん腫別縦割り疾患別に、治療の基礎と実務を繋げて講義で扱っている。実務実習直前の準備科目として、治療に関する実務に、学生が理解可能なエビデンスを添えることを意識した講義を行う。
・演習 9 では、臨床現場で想定される場面を想定した教材を利用して、薬剤師役として対応する実習を行っている。実務実習後の 6 年次の学生が、実習後に単独で挑めるレベルの教材について工夫している。
・臨床薬学実習Ⅱ、Ⅳでは、症例基盤型の教材や医療事故事例の分析、ペアワークの利用、省察レポートによるふりかえり、ルーブリック評価を取り入れている。
・自由科目セミナーでは、国内外の薬剤師の職能の理解を深め、さらにノースカロライナ大学薬学部学生と共に、英語で症例解析を行っている。
・実務実習では、「臨床を志向した問題解決能力」を実習生が発揮出来る機会を適切に得られるように、学生の在り方についてはガイダンスで周知する。学内教員が適切に実習に関わることで、実習先における実習の運用方法改善や学生との関わり方の改善が得られるように、教員の啓発とスキルアップを図る。方法としては、今まで実施しているが未活用である実務実習終了後学生アンケート結果を活用し、分析結果と問題点について教材として扱う。アンケートでは、薬剤師として求められる基本的な 10 の資質や、実務実習事前教育科目群がどれだけ実際に役立ったか記名式で実施しており、事前教育に対する学生からのフィードバックとしても有用である。また、委員会活動を通じてトラブル事例の対応に関するノウハウについて、共有とブラッシュアップを行う。

・社会人教育として、生涯学習講座（フォローアップ）を担当しており、最先端の治療の実態について講習会を企画している。
・卒業研究グループでは、希望者に人や動物の検体を利用したウェットな研究を実施しており、興味を持って研究テーマに取り組んでいる。結果に責任を持つ姿勢や、データの共有、解析、分析および討論を実施しており、また学会発表も奨励している。
・北海道薬剤師会の学術情報委員として、薬学大会のワークショップの企画運営を行なっており、薬学生とリサーチマインドを持つ薬剤師との交流の場を提供している。

「医療者としての倫理観の育成」
・臨床薬学実習Ⅴでは、ガイダンスおよび実習期間を通して、医療者としての接遇の重要性について最終確認する科目であり、評価チェックリストやピア評価を行い、個々の気づきと修正の場を多く設けている。
・薬と疾病（悪性腫瘍）の科目ガイダンスにおいて、医療者として緩和ケアを含むがん治療に関わる意義や患者の尊厳について扱っている。

・卒業研究グループでは、研究倫理の重要性についてガイダンスを行い、周知している。人や動物の検体を利用したウェットな研究を実施し、研究結果に責任を持つ姿勢や、データの共有、解析、分析および討論を実施している。

【成果・評価】
・講義科目 3 科目の授業アンケートでは、8～9 割以上の学生が興味を持って授業に臨み、講義の意義や有用性を認識するに至っていた。HUS-moodle 掲載教材や練習問題についても、利用状況は高く、学生アンケートから学習効果向上に繋がった旨のフィードバックを受けた。
・5 科目の実習演習科目では、9 割以上が、興味を持って参加し、講義の意義や有用性向上、学習効果の向上を示唆していた。学生のプロダクツ、および省察レポートには、自己学習の必要性を自己分析しており、医療者としての倫理観の向上もみられ、教材の問題解決のための気づきと自己の成長についての記載がみられた。
・実務実習の評価基準の見直し、2023 年度評価から実習報告会の評価の導入を行なった。
・実務実習後の学生アンケート（回収率 100%）からは、薬と疾病（悪性腫瘍）が、実務実習で大変役立った（55.4%）、役に立った（35.5%）との結果を得た。研究能力について、十分身についた（15.7%）、おおむね身についた（51.2%）、部分的に身についた（25.6%）との結果を得た。
・実務実習の質向上の為の「実務実習学生の支援に関する FD」を主催した（2024 年 1 月 19 日 14:00～15:00、A210 教室；対面参加者 30 名、欠席にて動画視聴 5 名）。
・既存の臨床研究の成果を 2022 年に薬学会で発表、国際ジャーナル（JPHCS）に投稿・掲載。新たな臨床研究の立ち上げを行い、2023 年に薬学会で発表、国際ジャーナル（TCRT）に投稿・掲載。
・薬学教育評価委員会の委員として、カリキュラムの事前自己点検を行い、問題点を抽出し、委員会で共有した。

【目標】
短期目標
・授業及び実習のアンケート回収率向上を図る。
・薬と疾病（悪性腫瘍）の担当の一部変更に伴い、教材の見直しを行い、患者症例のバリエーションとして難易度を調整した症例も作成して利用する。
・2024 年度は、新任教員が入職し、岩山先生もメンバーとなることから、卒業研究 M グループの体制が変わる。体制変更後であっても、スタッフ及び卒業研究の学生に対して、「臨床を志向した問題解決能力」、「医療者としての倫理観」、「リサーチマインド」の醸成に尽力する。
・臨床研究の継続の為に、学生と新任教員に対する、倫理教育及び研究スキルアップを行う。
・北海道薬剤師会の学術情報委員として、第 71 回 北海道薬学大会で「薬剤師キャリアカフェ」の企画実行を担当し、学生と薬剤師に学びの場を提供し、職域の拡大について啓発する（学校薬剤師、専門薬剤師、社会人博士号を取得された薬剤師、在宅に積極的に取り組んでいる薬剤師を講

師とした、情報提供を交流）。担当として、社会人博士号を取得された薬剤師のアサインに携わり、リサーチマインドの重要性について扱う。
・学内薬学教育評価委員会の委員として、カリキュラムの自己点検による問題点に対する対応について委員会で対応する。2024 年度は第三者評価受診年度であり、専門応用力の抽出科目として臨床薬学実習科目群の長期ルーブリックの作成を行い（委員会でたたき台作成済み）、PF 面談に実装する。
・2024 年度薬学教育評価機構評価実施委員として、守秘義務に配慮し、ノウハウを学ぶ。

長期目標
・卒業生との臨床研究の立ち上げと充実を目指し、研究業績の向上をはかる。
・リサーチマインドを持った、博士課程学生入学者数を上げる（過程、社会人）。
・医療施設と共に、臨床研究を維持する。
・実務実習全体の質向上の為に、北海道地区調整機構への働きかけを行う。
・薬学教育評価機構の基準観点に沿って 2024 年度のカリキュラムの自己点検・評価書の作成を行う。